Hoju Group 宝樹会

No.2
2017

さくら通信

宝樹会によるウィーン発の浄土真宗会報誌

仏教は６世紀に日本に伝わりました。浄土真宗は親鸞聖人(1173-1263年)によって築かれました。英語では“Shin-Buddhism“と呼ばれることがよくあります。このShinは浄土真宗の真で、真実を意味します。仏教は、差別や条件無く、全ての人の為であると説いています。

ごあいさつ

小松由佳

皆さま、初めまして。私は小松由佳と申し、「宝樹会」の会員のひとりです。自己紹介を兼ねて、少し書かせていただこうと思います。

「宗教」とは何でしょうか？これは大変大きな質問だと思います。手元にある漢語辞典でみてみますと、「神仏または神聖なものに関する信仰、儀礼。religionの訳語。もと仏教で、大本としてたっとぶ教えの意。」と出ています。この、前半の、religionの訳語として出ている部分は分かりやすいと思います。私個人の経験を例としてあげさせていただきます。

私は子供から思春期の頃にかけて、或る、ヨーロッパを中心として広まっている宗教を信仰しようと心がけました。その頃の自分を思い返すと、だいたい次にあげるような感じであったようです。

まず、私はよく神に祈っていました。「祈り」の内容はいつも、「自分の望み」でした。「平和」や「他の人のため」にといって祈ることもありましたが、いつも「自分の望み」なのです。そしてその「自分の望み」を「神」に叶えてくださいと訴えることが「祈り」であると思っていました。そしてその「祈り」を「神」がききとどけ叶えてくれるために私は「いい子」でなくてはならないと理解していました。

木のもとのお話(２)
お釈迦さま

お釈迦さまは、大変身分の高い家柄に生まれながら、裕福な生活を捨て、家を離れ、出家して、人間のすべての苦しみに打ち勝つために修行をなさいました。瞑想や断食、あらゆる苦行、禁欲等を行うことによって悟りを得ようとなさったのです。悟りを得たい、聖者になりたいと、それは厳しい修行を行われました。

「いい子」とはどういう子か？この宗教の団体が出版していた子供のための本から、大体次のように教わったと思います。「嘘をつかない」、「見返りを期待せずに人の為に尽くす」、「人や動物、草木など、生きとしいけるものを大切にする」等、もっともと思われる道徳的なこと。そして「神を信じる」という重大な柱です。「神」を「信じ」「畏れ」自分の「罪」を「詫び」「許しを乞う」等....。これらのことができたら、神様は私を「いい子」とみなしてくださる。私の「祈り」を聞き入れて下さったり、私を護って下さったり、もしかしたらいいことをもたらしたりしてくださるかもしれない、と思っていました。

ですから私は常に「純粋」であろう、と心がけました。それは、やはり子供向けに書かれた本に登場する女性像の影響もあります。なかでも、聖職者となった女性が、清い祈りによって奇跡を生み出し、人々を救う、という物語に強い感銘を受け、私もそうなりたい、と思いました。そのためには、聖職者のように、色のない、黒や白の地味な服を着て、欲を捨て、神に自分を捧げ、人の為、世界の為に祈り通そうと思いました。

ところが、ある日突然、せっかく生まれてきたのだから、私は世の中の清きも汚なきも全て知りたい、と思い、あっさりと聖職者への道を捨ててしまいました。

それからは、科学の及ばないこと、宇宙を創造した力などが「神」といえるのではないかと考え、神秘的なものに凝ったりしました。それは岡本英夫先生にお目にかかるまで続きました。

私が進学した大学は、偶然、宗教の授業のある学校でした。１年生の時、宗教の授業を受け持たれていたのが岡本先生でした。先生は、この文章のはじめに書きました「宗教」の仏教での意について触れられました。「宗」は「むね、中心」などの意である、と。つまり、「宗教」は「むねの教え、中心の教え」ということであると。私は大変驚きました。なぜなら子供のころの私は、神に認めてもらいたい一心でしたし、聖職者をあきらめてからは、宇宙など、ただよっているような感じのものを神としていたのですから。それが「宗教」だと思っていたのですから。

「宗教」は私たち生きている人間のための教え。人間を真に独立させ、「我が人生、心からよかった」と言えるようにさせるもの。私は宙に浮いているような状態から、しっかりと地に足がついたような気がしました。

それから、たくさんの浄土真宗の先生方、お同胞と知り合うことになりました。教えも繰り返し頂くことができ、本当に良かったと心から感謝しています。ですから、一人でも多くの方に、この教えに気づいていただきたいと願ってやみません。